

目をつむれば漢字の字形が頭の中に描かれる時期を、いつ、どのようにしてとらえるか。その方法を教えていただきたい。

私のこの主張の意図は、「初出の漢字を、読み書き同時に学習させ、同時に完成することを求める今の学習は、明らかに誤っていると確信するので、一日も早くやめさせたい」ということにあるのです。このような学習は、子供たちに不可能を要求するにも等しい行為で、とても“教育”とは言えません。

それに反して、読む機会を多く与え、その漢字に触れることが重なれば、自然と字形についての認識が深まり、それが書く能力を育てることは明らかです。その極が、目をつむればその字形が頭の中に描かれるようになった時で、そうなれば、一度の練習で書けるようになるはずだということです。

この道理がほんとうにわかったら、「その時期を、いつ、どのようにしてとらえるか」を考える前に読み先習をまず実行するはずです。読み書き同時教育をしないで読みだけの学習をする、それだけでもよいのです。なぜなら、それだけで、読み書き同時教育より“より良い”

のですから、初めはそれで満足すべきです。

指導のコツは、人から教わるものではありません。それは自ら求めるべきのものです。常に“より良い”ものを求めて、日々に向上し、年月を重ねて得られるものです。真に求めようとする心だけが、求めるものをついに獲得させるのです。

“最善”を人に尋ねている間は、求める心が薄弱であり、求める心が強ければ、“より良い”ものを求めてまず実行します。実行すれば、今まではっきりしなかったこともだんだん明らかになってくることは、霧の中を進むようなものです。十メートル進めば、今まで見えなかったところが、十メートルだけ見えてくるのに似ています。

「いつ、どのようにしてその時期をとらえるか」という質問は、実に愚問です。だから、愚答をしましょう。

「今がその時期だろう」と思われるまで、書く指導をしないこと。「今がその時期ではなからうか」と思ったところで、書く指導をすることです。指導してみてもうまくいかなければ、早すぎたのですから、すぐ中止して延ばすこと。そのうちに、その時期に行き当たります。